

交通安全だより第1号

I. 1月の安全運転管理について

1. 今年1年の安全運転目標を掲げよう

～職場と個人の安全運転目標を設定～

明けましておめでとうございます。新年を機に今年1年の安全運転の目標を設定しましょう。安全運転の目標は、個人の目標だけではなく、職場の目標も立てて下さい。設定した目標は、目につく場所に掲示したり、カードにして携帯するなど、常に目標を意識できるように工夫すると良いでしょう。安全運転目標は、実践されなければ意味がありません。実践できているかどうかを定期的に振り返ることで、安全運転目標の実践を習慣づけましょう。

～事業場の課題を把握し、対策を立てる～

昨年に発生した交通事故や違反を把握し、防止対策を検討しましょう。

例えば、自社駐車場での事故が多発した事業場では、

- ・ 駐車方向を一定にする（前向き駐車禁止等）
- ・ 進行方向を指定する
- ・ 走行速度を定める

と言ったルールを定め、遵守させるようにしましょう。同様に、実車を使った駐車訓練を実施して車両感覚を身に付けることも事故削減に効果的です。



2. エコドライブの実践で環境保全と事故防止の1年にしよう

「カーボンニュートラル*」実現を目指してさまざまな業界で取り組みが進んでいます。そこで、今年はエコドライブの実践に取り組んでみましょう。車は運転の仕方次第で排出される大気汚染物質を減らすことができます。例えば、発進から5秒で時速20Kmに達する程度の「ふんわりアクセル」で、燃費は10%ほどアップします。また、不要な荷物をおろすことは、燃料消費量が改善します。さらに、加減速の少ないエコドライブは、安全運転にも繋がります。環境保全と交通事故防止両方にメリットのあるエコドライブに取り組んで下さい。

* 人為的活動において排出された二酸化炭素等の温室効果ガスと吸収される温室効果ガスが同じ量になること。

3. ASV（先進安全自動車）を過信しない

先進技術を利用して運転者の安全運転を支援するASVの普及が進んでいます。こうした車は交通事故の防止や被害の軽減に役立ちます。しかし、その機能には限界があることを理解させる必要があります。例えば、衝突被害軽減ブレーキは、飛び出しや割込み、悪天候時など、条件によっては作動しない場合があります。先進安全技術はあくまで安全運転の支援ですので、過信せず、安全運転を心がけるように徹底していきましょう。

4. うっかり事故を防ぐ

車から降りるとき、ミラーだけをチラッと確認しただけですぐにドアを開け、後方から走行して来る二輪車等と衝突するうっかり事故が発生しています。ドアを開ける時は、ミラーで確認することはもちろん、一気に開けるのではなく、少し開けて後方の安全を目視で確認しましょう。少しドアを開けることで、彼らの車に「ドアを開く→降りる」ことを知らせる合図になります。

II. 今月の交通ヒヤリハット

・ 事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	帰宅途中
どこで	一般道路
何をしている時に	信号が変わり直進した時
どうなった	反対車線の渋滞の隙間から急に人が横断歩道に現れたので急いでブレーキを踏んだ (夜で良く見えなかった、慣れた道だった、疲労でぼーっとしていた)

Ⅲ. 今月の事故事例

◆事故の発生状況

令和〇年1月某日 16時頃 天候：晴れ

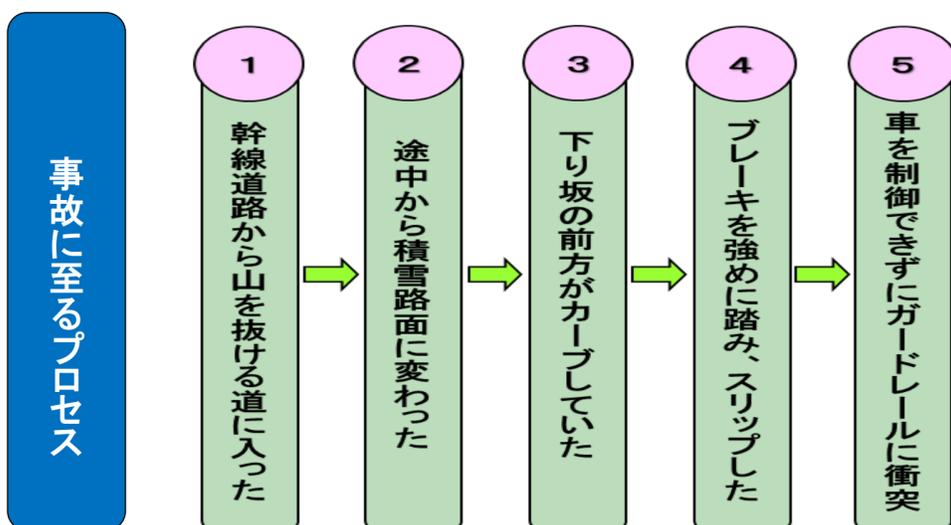
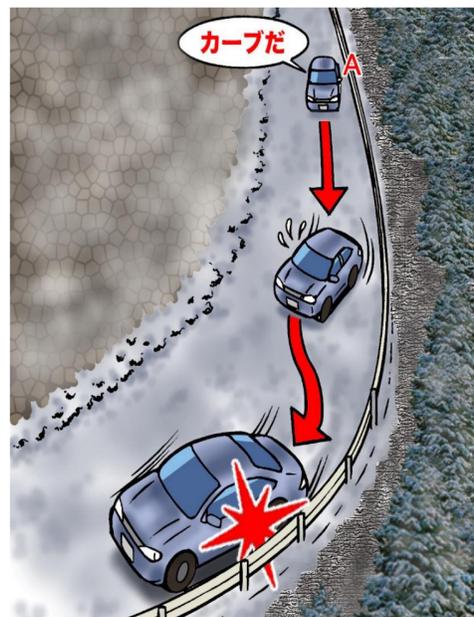
◆事故の当事者

A / 35歳 乗用車運転 乗用車運転歴：11年

◆事故の発生概要

Aさんは、出張先の最寄り駅まで電車でいき、駅近くでレンタカーを借りて数件の得意先を回りました。出張先は寒冷地で数日前には大雪でしたが、幹線道路の雪は半ば解けていて問題なく運転でき、15時頃に仕事が終わりました。

レンタカー会社に向かうべく幹線道路を走行していましたが、道路がやや混んできたため、乗ろうとしていた特急電車に間に合うか心配になりました。カーナビで検索すると山を抜ける道があり、山沿いを回る幹線道路よりも近道であることが分かったので、雪は解けているだろうと山道ルートを選択することにしました。そのルートを走行してしばらくすると、道路が積雪路面に変わりました。山陰のため雪は解けていなかったのです。そのまま進行すると、道路は上りから下りに変わりました。Aさんは慎重に下って行きましたが、前方が右に急カーブしているのを見て、減速しようと強めにブレーキを踏んだところ車はスリップを始め制御することができなくなりました。左に車体を向けたまま下っていき、ガードレールにぶつかり止まりました。



事故の原因と背景

- ①乗る予定の電車に間に合わせたいという急ぐ気持ちがあった。
- ②カーナビで検索して、近道である山道ルートを選択した。
- ③幹線道路の雪が解けていたので、山道も積雪していないと思い込んだ。
- ④雪道の下り坂の危険を十分に理解しておらず、強いブレーキを踏んでしまった。

類似事故を起こさないために運転者の対策

- カーナビに頼らず、地理不案内な地域では抜け道等を通行しない**
カーナビは積雪などの道路状況は表示しない。地理不案内の地域では、幹線道路主体に走行し、近道となる抜け道や裏道を安易に通行しないこと。
- 雪道の下り坂では慎重な運転に徹する**
雪道の下り坂は、ブレーキを少し強く踏み込んだだけでスリップして車をコントロールすることができなくなることがある。下り坂の手前で十分に減速しておき、エンジブレーキ等を主体に下っていくこと。

ワンポイントアドバイス **雪道の下り坂途中からの発進は避ける**

雪道の下り坂で難しいのは発進。アクセルを踏み込んで発進しようとすると、駆動輪がスリップして発進できないことがある。FF車は前輪の荷重が減少することから発進が難しく、FR車は後輪が空転すると発進不能となる。AT車ならクリープ現象を活用して発進しよう。

下り坂をスムーズに走るためには、下り坂手前の平坦なところから、少し勢いをつけて坂に進入し、坂の途中で止まらないように前車との車間距離を十分にとり、一定の速度で登坂していくこと。